

# 姫路市社会福祉協議会 地域福祉推進計画(案)に関する 市民意見(パブリック・コメント)の募集結果について

## 1 市民意見(パブリック・コメント)の概要

### (1) 募集期間

令和4年1月11日(火)～令和4年2月4日(金)

※ホームページや姫路市社協の各窓口(地域福祉課、各地域事務所及び分室)  
への資料設置等により意見を募集

### (2) 提出状況

提出者数及び件数 11人、24件

### (3) 意見の内容

・ 取組を進める事業の最終目標に関する事	1 件
・ 社協支部活動に関する事	2 件
・ 地域を支える担い手の育成に関する事	5 件
・ 災害に備えた取組に関する事	2 件
・ 地域で安心した生活を支えるに関する事	1 件
・ 姫路市社協や地域包括支援センターに関する事	1 件
・ 社協支部活動の周知に関する事	2 件
・ 用語説明に関する事	1 件
・ その他	9 件

項目			提出された市民意見（趣旨）	件数	姫路市社協の考え方	本編の頁
推進目標	推進方策	取組を進める事業				
取組を進める29事業の最終目標			それぞれの取組を進める事業の最終目標が、すでに実施している支援内容になっているものがある。取組を進めた結果どうなるかという表現になるのでは。	1	P20～P49に記載の取組を進める29事業の最終目標を見直し、17事業について、修正します。	20～49
1 互いに支えあいつながりあうまちづくり	(1) 社協支部活動を支え、ふれあいや見守り活動を推進します。	①～⑤全て	P18～P22について 新型コロナウイルスの関係で、地域福祉活動の中止や規模の縮小が余儀なくされている中、以前のような活動規模に戻すための活動が特に計画期間の前半に必要なのでは。活動項目を見ても通年同じ内容をするように見える。	1	新型コロナウイルスの状況を鑑み、新しい生活様式を取り入れ、それぞれの社協支部の実情に応じた地域福祉活動が継続できるよう支援していきます。	19
		⑤ 社協支部選択事業の拡充	22ページの「社協支部選択事業の拡充」について「・・・地域のニーズに柔軟に対応できるよう、地域活動の状況を把握し、必要に応じて新たなメニューを作り出すことで、広がりのある地域福祉活動の充実を目指します。」と記述してありますが、現事業の充実だけではなく、昨今の時代のニーズに沿った事業を追加又は見直しの検討も併せてお願いします。 具体的には、香呂地区では「子ども食堂」を立ち上げておりますが、社協の事業として認められていないので、社協香呂支部としても、ボランティア面や財源の支援はできず、寄付等で独自運営をしている厳しい現状です。 高齢者福祉に加え、時代の変化とともに、子ども達への福祉活動もより求められてきており、「子ども食堂」を定着させるためにも、社協の事業に組み入れていただきますようお願いいたします。 具体的なアクションプランを作成いただくことをお願いするとともに、コロナが収束した暁には、是非、現場を視察いただければ幸甚に存じます。	1	現在、姫路市社協では他団体と協働で、子ども食堂を実施している団体や支援関係者が参加するコミュニティ食堂ネットワーク会を定期的開催しております。参加者同士によるつながりをつくり、食材の提供や各種団体の助成金の情報提供を行う等の支援を行っています。 社協支部事業においては、P22の社協支部選択事業に「広がりのある地域福祉活動の充実を目指します」と記載しておりますとおり、新たなメニューや助成の方法等を検討し、柔軟に対応していくことを目指しております。ご意見頂きました子ども食堂の活動につきましては、検便の実施や食品衛生管理講習会（上述のコミュニティ食堂ネットワーク会で年1回実施）への参加をしていただくことで、社協支部選択事業のうち、「その他地域福祉の推進に寄与する事業」の対象としていくよう検討していきます。	22

項目			提出された市民意見（趣旨）	件数	姫路市社協の考え方	本編の頁
推進目標	推進方策	取組を進める事業				
1 互いに支えあいつながりあうまちづくり	(3) 地域を支える担い手を育成・支援します	② あんしんサポーターの養成	あんしんサポーターの養成や災害ボランティアの養成は、これからますます進む高齢化、災害の激甚化を考えたときに重要なことだと思う。	1	高齢者が住み慣れた地域で安心した生活をおくるために、地域において、ボランティア活動（話し相手、ゴミ出し、電球交換等）を行うあんしんサポーターを養成します。また、ボランティア活動を通じて、社会参加や地域貢献をするとともに、あんしんサポーター自身の健康増進を図り、介護予防にもつながるよう事業を推進します。	30
2 自分らしく安心して暮らせるまちづくり	(3) 災害に備えた取組を推進します	① 災害ボランティアの養成		1		昨今の災害時における災害ボランティアの重要性を鑑み、災害発生時に協力できる人材を確保し、研修等で共通認識・資質向上を図ることにより、有事の際の備えを充実していきます。
1 互いに支えあいつながりあうまちづくり	(3) 地域を支える担い手を育成・支援します	③ 担い手育成システムの研究【新規】	推進目標1の(3)について、地域活動の必要性を多くの住民に（一歩下がって、限られたわずかのの人にでも）、我が事・自分事と思える環境作りやスキルの育成に特効薬もなく、リーダーと言われながらも専門知識も持たずに効率悪く取り組むもどかしさ。後継者・次のリーダーを育成したい、それでも周りは次々と入れ替わって行かれる。	1	地域福祉活動に携わる方の入れ替わりはどの地域にもあり、キーパーソン・マンパワーの確保は、地域福祉を推進する上で重要な課題となっています。姫路市社協は、今後も住民への地域福祉活動の周知・理解を進めるとともに、ボランティア研修会を事業ごとに実施し、地域福祉活動が継続できるよう支援していきます。	27 31
			地域福祉推進計画の目的として地域住民の地域福祉への関心や意識を高め、活動の参加を促し、地域住民の協力や参加・・・と記されています。この問題は私共の地域の自治会活動に於いても全く同様な問題をかかえています。自治会、協議委員はじめ、各種団体のリーダーのなり手の不足が心配されています。又さらに少子化が進み、ますます近い将来の自治会活動が危機的な状況にさらされていると云っても過言ではありません。その中で、この様な計画を策定して頂き、私共の活動の目標方針が見えて来て大変参考になります。	1		

項目			提出された市民意見（趣旨）	件数	姫路市社協の考え方	本編の頁
推進目標	推進方策	取組を進める事業				
1 互いに支えあいつながりあうまちづくり	(3) 地域を支える担い手を育成・支援します	③ 担い手育成システムの研究 【新規】	<p>コロナ禍で心のソーシャルディスタンスも拡大し、人と人との関係性がどんどん希薄化してきています。地域の中でも「無縁社会」が広がってきているのではないのでしょうか。そんな中で、これからの地域福祉を考えると、地域を支える担い手の育成は絶対に欠かせないことだと痛感します。</p> <p>いくつになっても活動に元気に参加し、様々な世代に住民と関わりを持ちながら、いきいきと生活したいと思っている人は、たくさんいると思います。募集して来ていただくのではなく、出向いて行って仲間に入れるような活動があったらいいと思います。</p> <p>例えば、地域に出向いた「出前講座」とか、「広報活動」とか、発信していくことが大事ではないのでしょうか。</p>	1	<p>短大・大学をはじめ、生涯学習大学校や公共施設等にも社協支部ボランティア啓発のためのチラシを配布し、また、広報紙「ひめじの社協」や回覧板による周知を検討し、一人でも多くの方が、地域福祉活動に関心を持ち、ボランティアとして活動してもらえるよう努めてまいります。</p>	31

項目			提出された市民意見（趣旨）	件数	姫路市社協の考え方	本編の頁
推進目標	推進方策	取組を進める事業				
1 互いに支えあいつながりあうまちづくり	(3) 地域を支える担い手を育成・支援します	③ 担い手育成システムの研究 【新規】	ボランティアの高齢化に対する危機感はよく述べられているが具体的にもっと明確に書いてほしい。 例1. ボランティアの一部有料化 2. 姫路市社協直属のボランティアの創設等 3. ボランティア対象の楽しいイベント等	1	ボランティアの一部有料化について、姫路市社協では、社協支部ボランティアへの報償支給は今のところ考えておりません。しかし、姫路市には、あんしんサポーター（P70用語説明）制度があり、40歳以上の方については、市が指定する介護保険施設、地域包括支援センター、在宅高齢者宅でのボランティア活動実績に応じ、年間上限5,000円の活動交付金額が受け取れます。あんしんサポーターの養成（P30記載）を姫路市から受託しており、次年度からはカリキュラムの変更予定で受講しやすくなります。社協支部ボランティアにも案内させていただければと考えております。 姫路市社協直属のボランティア創設等については、姫路市社協としては、P44に記載しております災害ボランティアの養成を行い、登録してもらうことにより、災害時の体制を整えています。地域福祉活動に関するボランティアの担い手については、関心のある方が、社協支部ボランティアとして活動に参加しやすい環境づくりを行います。 ボランティア対象の楽しいイベント等については、事業ごとの交流会や研修会の実施、社協支部ブロック会議（市内数か所に分けての近隣の社協支部同士での意見交換）等により、ボランティア同士のつながりを深めることができるよう取り組んでまいります。	31
2 自分らしく安心して暮らせるまちづくり	(1) 地域で安心して暮らす生活を支えます	① 入院時支援サービスの提供【新規】	入院時支援サービスの提供について、モデル事業の実施を経て、サービス内容がより良く改善していくといいと思います。	1	入院時支援サービスの提供については、モデル実施を踏まえ、十分な検証を行った上で、事業内容を精査し、利用者に必要な支援を行います。この事業を通じて、入退院における利用者の不安を解消し、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう支援してまいります。	35

項目			提出された市民意見（趣旨）	件数	姫路市社協の考え方	本編の頁
推進目標	推進方策	取組を進める事業				
2 自分らしく 安心して暮 らせるまち づくり	(1) 地域で安心 した生活を 支えます	①～⑤全て	社協や包括センターについて、「生きるのに 疲れた時には彼ら・彼女たちに相談を」と言 い続けられる頼れるこの組織をもっと利用し て頂けたらとも感じます。	1	姫路市社協や地域包括支援センターを地域 住民に相談窓口として、利用していただ けるようPRし、必要な支援がスムーズに行 えるよう、関係支援機関とより一層の連携 を図ります。	34～ 41
	(2) 生活課題の 解決に向け た支援を強 化します	①～⑤全て				
	(3) 災害に備え た取組を推 進します	② 災害ボラン ティアセン ター運営体制 の整備	災害ボランティアについて、研修会の実施だ けではなく、実際に災害が発生した地域へ派 遣とかは、事業として考えてますか？実際に 災害ボランティアとして活動することが一番 の経験となると思う。	1	姫路市社協では、事業化は考えておりませ んが、大規模災害の際には、近畿ブロッ ク府県・指定都市社会福祉協議会の要請によ り、被災地の災害ボランティアセンターに 職員派遣を行っています。また、ボラン ティアを募集し、被災地にボランティアバ スの派遣を行っています。なお、近年は新 型コロナウイルス感染症のため、被災地の 災害ボランティアセンターが受入対象を県 内・市内や町内に限定することが多く、ボ ランティアの現地派遣は困難な状況となっ ています。	44
	(4) 幅広い世代 に向けて情 報発信を行 います	①～④全て	社協の周知について、「取り組みの周知が不 十分」とあるが、10年あまり前と比べれば大 変わかりやくすいPRツール（4事業等の単 枚パンフレット等）が増え、関心さえ持つて もらえば理解する環境は格段によくなってい ると思います。	1	若い世代を含む幅広い世代に関心を持つて もらえるようPRを行っていきます。	47～ 49

項目			提出された市民意見（趣旨）	件数	姫路市社協の考え方	本編の頁
推進目標	推進方策	取組を進める事業				
2 自分らしく安心して暮らせるまちづくり	(4) 幅広い世代に向けて情報発信を行います	② ホームページの充実及びSNSの活用  ④ 新たな情報発信の研究 【新規】	社協支部の活動について、特に若者への周知が進んでいないように感じるので、情報発信の充実に積極的に取り組んでほしい。	1	LINEやインスタグラム等新たな媒体の利用を含め、若い世代にも社協支部活動を知ってもらえるよう取り組んでまいります。	48 49
資料5 用語説明			ボランティアに関わっている人はよく分かる事業や語句ですが、はじめての人など分かりにくい場合があるので巻末に語句用語の説明を加筆してほしい。 例 8050問題、地域包括支援センターなど	1	「8050問題」についてはP71に記載のとおりで、「準基幹地域包括支援センター」及び「地域包括支援センター」を用語説明に加筆させていただきます。	70 71
その他			P9～13の統計でコロナ感染の影響の大きさが分かってとってもいいです。感染症、風水害、地震等の不測の対応についての項目を一つ設定してほしい。  1. 地域推進計画（案）のなかで大きな推進目標2、推進方策7、その取組を進める事業30項目と多岐にわたり、その事業遂行にあたって5～6年で終了するよう水平展開するになっているが、今世界中が新型コロナウイルス蔓延中のなかで、いつ収束するかは専門家でも分からない状況であり、コロナ後の事業継続の計画（BCP）を策定するにあたっては、もう少し柔軟性をもたせて事業を進められては、いかがなものかと考えられます。	1  1	P19の下部に「(コロナ禍においても)地域の現状に合った活動にしていく必要があります」、また、P43に「いざ災害が起きた際に立ち向かう備えを充実させる」と記載のように、感染症、災害等不測の事態においては、事業継続を柔軟に判断し、地域福祉活動を継続していきます。	19 43

項目			提出された市民意見（趣旨）	件数	姫路市社協の考え方	本編の頁
推進目標	推進方策	取組を進める事業				
その他			推進方策（2） P24 突発的に起こる対応を追記 （自然災害時、今回のようなコロナ禍対応）	1	P19の下部に「（コロナ禍においても）地域の現状に合った活動にしていく必要があります」また、P43に「いざ災害が起きた際に立ち向かう備えを充実させる」と記載のように、感染症、災害等不測の事態においては、事業継続を柔軟に判断し、地域福祉活動を継続していきます。	19 43
			2. 例えば、業務を継続的に改善する方法として、P（計画）→D（実行）→C（検証）→A（改善）の輪をまわし、2年後ぐらい後で検証し、コロナウィルス終息後において新たに発生する項目について、プライオリティーをつけて、追加・修正するなど柔軟な対応されては、いかがなものですか。	1	前回の計画においても毎年度、四半期毎に計画の進捗状況の確認を行っております。また、理事会・評議員会においても報告を行うことで、見直しを行う仕組を構築してまいりました。今回の計画においてもそれを踏襲し、事業推進の点検・評価を行い、社会情勢や地域の課題に柔軟に対応していきます。	
			社協支部の現状 P8 市・社協の組織体制を追記。	1	毎年度作成する「事業計画並びに資金収支予算書」に記載し、福祉推進委員に配付しております。 ※福祉推進委員は、自治会、民生委員児童委員、社協支部等の小学校区の代表、福祉団体、その他関係機関からの推薦者で構成され、姫路市社協の事業への積極的参画、社協支部のリーダーとしての役割を担っています。	
			情報発信の充実 ボランティア手帳の有効活用を追記	1	ボランティア手帳については、毎年作成し、社協支部ボランティアに配付させていただいておりますので、本計画に記載はございませんが、有効にご活用いただければ幸いです。	
			職員の「心のふれあいスキルアップ」的な研修があったらいいと思います。 いろいろな方々に相談活動・面談活動する上で、人と人とのふれあいをいかにうまく進めるかは、職員のみなさまの力量にかかっています。	1	職員の資質向上のため、内部研修の実施に加え、外部研修へ参加します。	



項目			提出された市民意見（趣旨）	件数	姫路市社協の考え方	本編の頁
推進目標	推進方策	取組を進める事業				
その他			<p>「コミュニティソーシャルワーカー」について、推進方策（1）のとおり、本市の全域において住民に身近な見守り活動が展開されていることは、本市の大きな強みであり、自治会を始めとする地域団体の皆様の熱意に加え、それらの活動を下支えされてこられた社協の活動の成果だと感じています。また、推進方策（2）の地域包括支援センターの活動も、住民主体の地域での支え合いにおける牽引役となっていると思います。</p> <p>他方で、課題の欄に記載がありますが、地域活動の担い手の高齢化や不足が散見されるようになっており、今後の活動における不安要素となっているのも事実です。</p> <p>姫路市地域福祉計画の重点方策にも「社協のコミュニティソーシャルワーカーによる支援」が掲げられています。今後も、住民主体の地域活動が活発に続けられるよう、地域活動の担い手を始めとする住民の良き相談役として、社協のコミュニティソーシャルワーカーのこれまでの取り組みや、今後求められる役割などについて、計画内に特記するなど記載を充実されてはどうかと感じますがいかがでしょうか？</p>	1	<p>少子高齢化が進み、地域における人間関係の希薄化や近隣同士の支え合いが難しくなり、将来の地域における福祉力の弱体化が懸念されています。姫路市社協地域福祉担当として、それぞれの地域の現状に応じ、社協支部の支援を含めた地域支援を推進していくとともに、個別支援については、関係支援機関と連携しながら、課題解決に向けて対応していきます。</p>	
			<p>小地域福祉計画の立案を体験した立場から：年を追って次々増える、担わなければならない事象、3年計画でもなかなか大変でしたが先を見通しての膨大な役割への対処と方策。気が遠くなるような努力に敬意を表します。自治会を通して地域活動を進める立場から：コミュニティ活動、防災活動、民生委員との協働、支部4事業の実践等々、やればやるほどすべての目指すところは一つだと感じます。</p>	1	<p>地域の福祉課題が複雑化する中、地域福祉活動は今後ますます重要となってきます。姫路市社協として、地域福祉推進計画の基本目標に掲げる「みんなですすめる！心やさしい福祉のまちづくり」を実現するため、地域住民主体の地域福祉活動が継続できるように支援してまいります。</p>	